

は る か

登録番号：第5202号

登録年月日：平成8年10月15日

登録者：石井徳雄（福岡県糸島郡二丈町

大字吉井1944）

育成者：石井徳雄

来歴：「ヒュウガナツ」の自然交雑実生

育成地：福岡県糸島郡二丈町

特 性

■栽培特性

樹勢は中庸で、樹姿はやや直立である。枝梢の発生はやや密、分岐角度はやや直立である。若樹の生育は比較的旺盛でトゲを有するが、樹齢とともにトゲは短く、少なくなる。葉は葉身が菱形、基部、先端部とも鋭である。葉の大きさは中～小であるが、樹齢とともに小さくなる。

花は単生または混合花序で、大きさは中、花粉は多い。自家結実性は高いが、単為結果性は低い。ヒュウガナツとの交配親和性は高い。

■果実特性

果実は扁球形で、重さ200g前後である。果梗部は球面であるが、まれにネックを生じる。果頂部は水平域が小さく、凹環が明瞭である。果皮は淡黄色で、果面の平滑度は中、果皮の厚さは5mm前後で日向夏より薄く、アルベドは日向夏のように食せない。

剥皮の難易は中で、香りは弱いブタン臭である。じょうのう膜の硬さはやや硬く、さじょうの色は黄白、果汁の多少は中である。15個前後の種子が形成される。

糖度は、2月中旬の完全着色期には13%程度になる。酸度は、12月に0.7%程度まで減少するが、その後の変化は小さい。ヒュウガナツと比較して明らかに酸度の減少が早い。果汁はショ糖含量が高く、遊離酸はリンゴ酸含量が高く、爽快な食味が特徴である。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

そうか病、かいよう病には強い方であり、慣行防除で特に病虫害の問題は認められていない。

自家結実性であるため、ヒュウガナツのように受粉樹は必要ない。隔年結果は比較的少ないが、連年安定生産するためには生理的落果後に早期摘果を行って樹勢を維持する。直花果で上向きとなるような果実は肥大が良いが、果肉にす上り症を発生しやすいので除去し、樹冠のやや内側で下向きの有葉果を主体に葉果比80～90程度となるよう残す。

収穫した果実は、選別後コンテナに新聞紙を敷き、果実を3段程度詰めて貯蔵する。貯蔵性は良く、こはん症、腐敗果の発生は少ない。果実は酸度が低いため2月から出荷は可能で、5月頃まで出荷できる。貯蔵が長期になる場合は果皮のしおれ、果肉のす上りに留意する。

■地域適応性

冬期落果は認められず、樹の耐寒性は比較的強いが、収穫期が完全着色となる2月以降であるため、果実が凍結するような地域は避ける。後期落果は少なく、鳥害の発生も少なく栽培は容易である。良品質な果実を安定生産するためには、土壌が肥沃で排水性の良いことが望ましい。

（松本和紀）